

コミュニティ交流会でお手伝いをしました

コロナ禍を経て、コミュニティのつながりがより希薄になった、コミュニティ活動も停滞したように見える。これらのことから、コミュニティ活動の中心を担っている市民が交流して、新しい活動のノウハウやヒントを交換しようと毎年行われています。この中のいくつかをお手伝いしました。

☆各区で特色をだして

名古屋市の各区では、その区の特色を出して、いろいろな市民との交流や交流の方法で行われています。全てがワークショップ方式で進められています。

区の活動を担っている方々との間で、また市民としての企業との間で行うなど参加者も新しい工夫で開催されています。内容も各区で工夫してコミュニティ活動を行っていることの共有やIT活用の提案などです。

☆他の学区との交流の成果

参加された方々は、ワークショップに慣れていることもあり、積極的に意見交換されていました。

印象的だったのは2つあります。1つは、地元の企業の方々は、このような場に出てきてくださっているだけあって、地元貢献したいというお気持ちが強かったことが印象的でした。地元の方々の、担い手不足で今まで開催してきた行事を諦めなければならなくなっているという発言に対して、企業は地元のニーズがわからないので動きづらいこと、声をかけてほしいと積極的な意見でした。これこそマッチングの始まり。とても素敵な場に居合わせることができました。

もう1つは、回覧板をITを活用して地域の情報共有する市としての取り組みがあり、すでにLINEで共有している学区が少なからずあることでした。まだまだこれからというコミュニティもあるのですが、導入して労力を省いているとおっしゃっていました。どれくらいラクになったのか、もっと負担が少なくなる取り組みについて情報交換されていたらいいなと思いました。

*コミュニティごとに特徴があるのが、自治組織です。それは、とっても貴重で尊いことです。

ただ、そのコミュニティの代表の方々の意識によって、やれることに差がでてしまうのだと痛感しました。

代表の方だけで頑張ろうとせずに、地元の企業を含めて、若い方やできる人をお願いするということも考えてくださると、もっと負担が減るのではと思いました。

その橋渡しの機会、場にいられることに感謝しております。

